

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>・「学校運営」については、保護者アンケートでもおおむね良い評価をいただいているが、「施設・設備」において評価が低い。遊具の老朽化等に対処するため、修繕、移設を調整中である。</p> <p>・「教育活動」については、「基礎学力の向上」「心の教育」については十分に成果が上がっているとは言えない。職員の授業力を向上させるための実効性のある手立てを考え、実践していく必要がある。今年度成果が上がった取組については次年度も継続していく。校務や教育活動を見直し、より効率よく成果を上げる方法について、教職員間で協議しながら実践へとつなげていく。</p>
2 学校教育目標	生きる力を身に付け、学校・家庭・地域の思いを受け継ぐ ときわっ子の育成
3 本年度の重点目標	ア、確かな学力を育む教育活動の推進 イ、豊かな心を育む教育活動の推進 ウ、健やかな体を育む教育活動の推進 エ、特別支援教育活動の推進 オ、幼・保・小・中連携の推進 カ、時代のニーズに対応した教育の推進 キ、家庭・地域との連携強化 ク、働き方改革の推進

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
重点取組			具体的取組		中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)			進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上。(教職員アンケート)	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。								
	○基礎学力を含む知識及び技能の定着を図る。	○市販テストにおける「知識及び技能」の得点が、全国平均を上回る児童が70%以上。 ○保護者アンケートの基礎学力向上の成果で「そう思う」回答50%以上。(保護者アンケート)	・テストごとに達成度合いを調べ振り返る。 ・各学級での取組を保護者に保護者面談や学級通信等で周知する。								
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○豊かな心に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童が80%以上。(児童アンケート)	・人権集会や平和集会の実施及び実施後の児童の振り返りの考察 ・週1回の道徳の授業の充実 ・道徳強化週間の設定(全校道徳、授業公開等)								
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの防止等について、組織的対応ができていると回答した教職員が80%以上。(教職員アンケート)	・いじめに関する職員研修を年に2回以上実施する。 ・毎月のいじめに関するアンケート、学期に1回のQ-Rアンケートを実施し、児童の状況把握・早期対応に努める。 ・毎月の児童支援連絡会で、気になる事案等については全職員で共通理解を図る。 ・学期末に1回、教職員へアンケートを実施する。								
	○「ときわっ子体験活動」を中心とした郷土について学ぶ体験活動の充実	○生活科及び総合的な学習の時間における体験活動を含む学習の実施前後にアンケートにて、「体験活動を通して、郷土について学びを得た」と考える児童90パーセント以上。(校内研アンケート)	・ときわっ子応援団の掲示を行い、地域人材への児童の興味関心を高める。 ・生活科及び総合的な学習の時間における体験活動を含む学習の実施前後にアンケートを取り、実感を考察する。								
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	④「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上。(児童アンケート) ○「好き嫌いをせず食べている」と考える児童80%以上。(児童アンケート)	・食育指導にあたっては、児童の食に関する実態を把握し、その実態に即した内容の指導をすることで、より興味・関心をひくものとなるように努めていく。 ・給食委員会の活動として、給食の月目標や季節や行事に関わる「食」についての情報を発信していく。 ・道徳科や学級指導等と関連させて、食の重要性や食に関わる人への感謝についての指導を行う。								
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間等の上限を遵守する。	・週1回の定時退勤日を設定する。 ・月半分の時間外勤務を集計して知らせ、1月の業務のペース配分を意識させる。							
	○学校行事や会議等の精選・効率化の推進	○設定時間内に終わる会議を70%以上。	・行事の目的を明確にして提案し、内容をスリム化する。 ・会議資料は2日前に教務が集約し時間配分をする。口頭連絡で済むものは校務シェア回覧板を活用する。								

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
重点取組			具体的取組		中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)			進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
○特別支援教育活動の推進	○特別支援教育研修及びケース会議の充実	○(学校独自成果指標・任意) ・研修後のアンケートで、特別支援に関する専門性が向上したと認識する教員70%以上。	・交流学級との連携を図り、教師の専門性を高めるための特別支援に関する研修会の実施 ・ケース会議の実施、情報共有								
○時代のニーズに対応した教育の推進	○情報モラル教育の充実	○(学校独自成果指標・任意) ・情報モラル教室後のアンケートで、「個人情報取り扱いに気を付けるべき」と回答する児童70%以上。	・情報モラル教室を3～6年生を対象に行う。 ・道徳科の情報モラルを題材にした教材を、各学級で取り扱う。								
○家庭・地域との連携強化	○育友会活動の充実	○(学校独自成果指標・任意) ・「育友会活動に積極的に参加している」と回答する保護者70%以上。(保護者アンケート)	・各部の活動について内容を予め伝えて関心を持ってもらう。 ・引継ぎ事項をデータ化し、USBメモリで次の役員に引き継ぐ。								
	○防災教育の充実	○(学校独自成果指標・任意) ・防災講座・集団下校後のアンケートで、「防災意識が高まった」と回答する児童70%以上。	・地域消防団を講師とする防災講座を全校児童を対象に行う。 ・定期のほか、警報発令時に集団下校引率を行う。								

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
--------------------	----------------------------